

上級 J C 研修に係る第 9 回作業部会における主な意見

〔上級 J C 研修で実施すべき内容〕

- 訪問型・企業在籍型でそれぞれの経験を積んでいる場合、カリキュラムに選択科目を入れることはどうか。
- 地域内でスーパーバイズを行う際に役に立つような内容も入れられたらどうか。
- カリキュラムに実習を入れるのであれば、上級 JC には伴走型支援に期待したいので、中小企業での実習がよいのではないか。
- 実習を行うプロセスや一定の要件を決めることがよいのではないか。（特にコロナ禍は）実習先の確保も困難だった。
- 上級 JC は、障害者と企業の具体的なズレに対応する必要があるため、演習と事例研究のウェイトを高くし、スーパービジョンを行い問題解決への道筋を言語化できるようにすることが重要ではないか。実習を必須としないのであれば、代替案の検討が必要。
- 養成研修の 42 時間よりは短くてよいのでは。3 日間程度はどうか。JC 数を増やす必要がある点も考慮して。
- 研修修了にあたり、効果測定のような仕組みが必要か否かも検討が必要では。
- 必要なカリキュラム整理し、足し上げたものがボリューム感になるとは思うが、養成研修と同時間が必要とは思わない。
- 月曜から金曜に収まるプログラムが望ましいのではないか。養成研修で扱われる制度に関する知識と実際の会社に合わせてそれを提案する技術はだいぶ違う。制度も事例として演習で身につけることが必要。3 日間よりはボリュームが必要ではないか。

〔上級 J C 研修の受講要件〕

- 近接する国家資格を保持していて、実務経験があれば、上級 JC に参画することとしてはどうか。
- 今現場で活動していなくとも、過去に実績があり、JC のマネジメント業務をしているのであれば、実務経験に含めていただきたい。
- なかぼつ、都道府県の福祉事業、障害福祉サービス事業所などでの活動日数を設定し、それを法人に証明させることはどうか。
- 実務経験については、自己申告ではなく証明できるものが必要。助成金の支給実績は少なくとも客観的に証明できるのでは。
- 助成金活動であれば JEED も関わっており、支援の質を担保できるのでは。タイムリーに現場を知っていることも重要では。
- エビデンスも必要であるが、狭義の JC 支援（助成金活動のみ）を要件にしてしまうと、活躍できる幅が減ってしまうのでは。
- 基礎的研修、養成研修、上級 JC 研修の階層が提案されている中で、あまり狭めてしまうと、上級 JC が成り立たなくなることも危惧される。なり手が見つかるのか、目指していた階層化が成り立つのかの観点を含め整理することが必要では。

〔上級 J C 研修の実施主体〕

- 法人格が必要なのではないか。